

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

山口大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	3
《本文》	4
《判定結果一覧表》	20

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

地域の基幹総合大学として、さらなる教育・研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、明治維新発祥の地に根付く「挑戦と変革の精神」を受け継ぎ、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学へと進化していく。そのために、次の基本的な目標を掲げる。

1. 【教育】～学生とともに成長する～

教育理念に掲げる“発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場”を創出し、さらに全ての大学人が、地域や世界の人々とのあらゆる垣根を越えて多様性を許容し、共同・共育・共有の精神である“山大スピリット”を持って成長し続ける大学を目指す。そのため、社会の期待に応えるべく質の保証を担保し、国際標準に沿った教育を展開することにより、「課題解決力」、「自己研鑽力」、「チャレンジ精神」などの「人間力」を備え、「国際理解力」と「高い専門能力」を持ち、イノベーションを生み出すことができる人材を育成している。

学士課程教育においては、課題解決型学習の推進、アクティブ・ラーニングの推進、学修成果の可視化、大学院教育においては、イノベーション人材の育成、知的財産及び研究者倫理教育の推進等に取り組んでいる。また、学生への経済支援、障がいのある学生への支援、キャリア形成に関する支援、多様な学生を受け入れるための入試方法の開発と改善等に取り組んでいる。

2. 【研究】～新しい価値を創造する～

大内文化に始まる洗練された伝統と、明治の革新的な「維新マインド」を背景に、地域の基幹総合大学として各専門分野での研究を極めるとともに、他分野や学外・国外の研究者との交流・連携を深め、新たな研究シーズを創出し、地域や時代が求めるニーズや課題に応える研究を推進する。研究成果の社会還元を目的に、科学技術イノベーション創出をリードし、文系と理系が融合する新たな研究や学問分野の創成を目指す。

本学の強みを活かした国際的な研究拠点の形成と国際的な研究活動の実施、地域社会のニーズに対応した共同研究等の実施、若手・女性研究者の育成、研究支援人材の確保及び研究機器の充実による研究基盤の強化、実践的なイノベーション人材育成プログラムの開発、地域の企業及び金融界と連携したベンチャー企業支援体制の構築等に取り組んでいる。

3. 【地域連携】～地域社会とともに前進する～

地域の基幹総合大学として、地域が抱える多様な課題の解決に地域と連携・協力しつつ取り組み、地域の『知』の拠点としての役割を明確にして、「地方創生」を牽引する。

「地方創生」に資するため、地域が求める人材の養成・育成を見据えた教育を推進するとともに、産業振興への寄与、イノベーション創出への取組等を通じ、地元への“人財”の定着の促進を図る。

文化の香りのする地域の実現とともに、高度先進医療の提供、防災や環境に関する研究成果の展開などを通じて安全で安心して生活できる地域の実現に貢献する。

地域の「知」の拠点としての地域未来創生センターの設置による地域課題解決のためのシンクタンク機能の強化、山口学を構築し、その成果による地域課題の解決や公開講座等による知の還元、産業構造や観光資源に関する教育プログラムの開発、地域志向型人材の育成と地域への定着等により、地方創生に取り組んでいる。

4. 【グローバル化】～山口から世界に発信する～

留学生を含む全ての大学人と、地域の人々が、互いの歴史・文化・民俗・言語・宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・共奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」を目指す。そのため、時空間を超えた“知の広場”で国内外の問題解決に繋がる『知』の創出を行うとともに、国籍を超えて「維新マインド」を持ち、世界、特にアジア地域の持続的な発展（サステナブル・アジア）に貢献し、日本発イノベーション（イノベーション・ジャパン）を生み出す人材を育成している。

国際水準を満たす教育課程の編成と質保証、本学の特徴的な教育研究分野の強みを活かしたアジア標準となる教育プログラムの開発、派遣・受入留学生のための環境整備、広報活動強化のための海外オフィスの設置及び海外同窓会の組織化等に取り組んでいる。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- 2013年度（H25）から全学部の1年生全員（約2,000人）に対して知的財産教育を必修化するとともに、学士課程から大学院に至る知的財産教育カリキュラム体系を整備した。本学では、文系・理系を問わず各自の専門性や必要性に適合した知的財産に関する知識やその活用スキルを社会の発展に役立つように駆使できる人材を育成している。（関連する中期計画1-1-1-3、1-1-2-1）
- 2018年度（H30）から全学部の1年生全員（約2,000人）に対して、データサイエンスの要素を含む情報処理分野科目を必修化するとともに、全学部の専門教育への展開を進めている。（関連する中期計画1-1-1-4）

[戦略性が高く意欲的な目標・計画 (◆)]

- ディプロマ・ポリシーに基づく人材育成の達成度を定量的に可視化する「山口大学能力基盤型カリキュラムシステム（YU CoB CuS）」を2019年度（R1）までに全学展開した。また、同システムと連動したポートフォリオ（総合的な学習の評価方法）システム等を導入し、学修プロセスを可視化することにより、学生自身の振り返りを促進するとともに、教員による学修プロセスの把握を通じた学修指導を可能とし、教育・学修の質的転換に繋げている。（関連する中期計画1-2-1-2）
- これまでの知的財産教育の蓄積を踏まえて、「知的財産センター」を全国の知的財産教育研究の共同利用拠点として他大学へのファカルティディベロップメント及びスタッフディベロップメントや独自の特許検索システムの活用を推進している。（関連する中期計画1-2-1-4）
- 世界の学術研究をリードする「研究拠点群」の形成や異分野融合の研究分野を開拓しながら、各部局・各研究分野における研究の多様性を確保し、個性的で独創的な研究領域の創出を推進している。（関連する中期計画2-1-1-2、2-1-2-1）
- 地域が求める人材育成や教育プログラムの構築を行い、優れた人材の地域への定着を図っている。（関連する中期計画3-1-2-1、3-1-2-2）
- 大学のグローバル化を総合的に推進し、「ダイバーシティ・キャンパス」の実現に取り組んでいる
（関連する中期計画4-1-1-1、4-1-1-2、4-1-1-3）
- 教員養成課程へ一本化した教育学部、附属学校園及び2016年度（H28）に設置した教職大学院（教職実践高度化専攻）が協働し、教育研究活動に関わるシステムの構築及び実践的指導力を有する教員養成の先導的モデルの創出に取り組み、教員養成機能の充実を図っている。（関連する中期計画1-1-1-5）

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、山口大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 進捗して いる	【2】 十分に進 捗しているとはい えない	【1】 進捗して いない
I 教育に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる		1	2		
2 教育の実施体制等に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		1			
3 学生への支援に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
II 研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		1	1		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
	なし			2		
IV その他の目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある					
1 グローバル化に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		1			

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」、3項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
学生が修得すべき学修能力を明確化し、地域から世界までを視野に入れた実践的課題解決能力を培うための体系的な学士課程教育を実施する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「教員就職率向上の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ 教員就職率向上の推進 教育現場のニーズに即したカリキュラムの編成、学校現場での指導経験を有する大学教員の割合の増加、学生が現職教		

	<p>員と協働して「ちゃぶ台活動」（学生、大学教員、現職教員、教育機関担当者、地域の教育関係者が協働し様々な教育体験や活動を行うことによる教育課題の理解と解決能力の育成を図る教員養成・研修プログラム）への参加等により、正規採用教員就職率は、平成 29 年度は 56.6%、平成 30 年度は 58.1%となり、2 年連続で全国 1 位となっている。（中期計画 1-1-1-5）</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ アクティブ・ラーニングの推進</p> <p>授業の中でのアクティブ・ラーニング要素の占める割合を示すアクティブ・ラーニングポイント認定制度の導入や、アクティブ・ラーニングベストティーチャー表彰制度を創設している。アクティブ・ラーニングの組織的推進が進み、平成 26 年度に採択された文部科学省の大学教育再生加速プログラムの中間評価（平成 29 年度）において、S 評価を受けている。（中期計画 1-1-1-2）</p> <p>○ 国際総合科学部における PBL の実施</p> <p>平成 27 年度に新設した国際総合科学部において、4 年次の 1 年間を通して、企業の事業戦略や自治体の政策等の実社会にある課題の解決に取り組むプロジェクト型課題解決研究（PBL）を実施している。企業等との関わりを深め、実社会で即戦力となる実践的な力や、国際感覚やコーディネートを身に付けることで、グローバルに展開する企業や情報関連企業等への就職が増加し、就職率 100%（平成 30 年度）を達成している。（中期計画 1-1-1-4）</p> <p>○ データサイエンス教育の推進</p> <p>平成 30 年度から、文系を含む全学部の 1 年生全員（約 2,000 名）必修のデータサイエンス教育科目を共通教育で開講している。また、全学部の専門教育への展開を目指して、各学部で実施しているデータサイエンスに関連する科目の実施状況を把握し、各学部でのデータサイエンス教育の到達目標を整理している。（中期計画 1-1-1-4）</p>
--	--

小項目 1-1-2	判定		判断理由
<p>各専門領域の強み・特色を明確にし、時代の動向や社会構造の変化に対応する体系的な大学院教育を実施する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 課題解決型実践教育の推進 創成科学研究科では、イノベーション実践教育プログラムとして、新しい大学院教育モデルの構築や先取り履修制度等による学部教育と一貫した教育の効果を高めることを目指して、専攻横断型の学生小集団による課題解決型プロジェクト研究「CPOT (Center for Post Graduate Skill Training) プログラム」を平成 28 年度から順次開設し、分野横断型プロジェクトを実施している。(中期計画 1-1-2-2)</p> <p>○ イノベーション創出の推進 企業と学生・研究者の議論する場とアイデアのプロトタイプを試作する場を一体化したイノベーションの場(「志」イノベーション道場)において、学生のベンチャービジネスプランを競う「「志」コンテスト 2017」を開催し、工学部の学生が「NEDO TCP 2017 ファイナリスト賞」を受賞している。これにより、令和元年度に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との起業家支援に関する相互協力の覚書を締結している。また、学生のベンチャービジネスプランを起業へと繋げるため、地元金融機関と共同で投資ファンド「Fun Fun Drive: ファンファンドライブ」を設立し、イノベーション教育から起業までに至る支援体制を構築している。(中期計画 1-1-2-2)</p> <p>○ 教職大学院の再編 山口県内の教育関係諸機関と連携を図りながら、教職大学院を再編し、学生定員を増員して強化を図っている。修了生の教員就職率は、平成 29 年度から 3 年連続で 100%を達成し、地域において指導的役割を担える教員を養成している。(中期計画 1-1-2-3)</p>		

小項目 1-1-3	判定		判断理由
地域社会のニーズに対応し、大学において社会人が新たな能力を獲得するための学び直しを推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

(2) 教育の実施体制等に関する目標（中項目 1-2）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
教学マネジメントを強化するとともに、修得すべき能力に対する到達度を客観的に示す評価方法を導入し、学生の学びを保証する。また、他大学との連携により教育体制を整備・強化し、教育の質を向上させる。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「欧州獣医学教育国際認証の取得」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ 欧州獣医学教育国際認証の取得 令和元年度に共同獣医学部が欧州獣医学教育国際認証(EAEVE)をアジアで初めて取得し、欧米主導で進む獣医学教育の国際化の流れのなかで、アジア地域における今後の獣医学教育の発展並びに獣医師養成に大きく貢献できる環境を整備している。(中期計画 1-2-1-4)		

	<p>(特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特許情報の活用による研究支援 「特許情報検索インストラクター」制度を設置し、平成28年度から令和元年度までに167名を認定し、認定された学生インストラクターが、教員の研究テーマに関連する特許情報を提供することにより、研究者支援活動を推進できる体制を整備している。(中期計画 1-2-1-4) ○ 他大学の知的財産教育への貢献 平成27年度に知的財産教育の全国共同利用拠点校として認定され、協力大学の知的財産教育を支援している。知的財産教育に関するFD受講者数は、第2期中期目標期間末時点では約2,000名であったが、令和元年度では約8倍の15,903名が受講しており、日本国内の知的財産教育の推進に貢献している。(中期計画 1-2-1-4) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、ハイブリッド型授業の取組や学生の各授業受講への配慮を行いながら、コロナ禍における授業受講の工夫に努めている。例えば、教育学部においては、教育学部生と子どもたちが密に関わり合う機会を提供し、オンラインの特性を生かして新しい遊びや交流のカタチを創出するきっかけを提供するオンライン学童保育「大学生とおうちで遊ぼう！」などの取組を行っている。
--	---

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
<p>学生が学修に専念できる環境を整備するため、経済支援を充実するとともに、学生の主体的な学びを促進する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 学生の自主的活動の推進</p> <p>大学の独自財源である「山口大学基金」を活用し、学生のユニークな自主活動である「山口大学おもしろプロジェクト」を平成28年度から令和元年度に40件採択(支援総額1,000万円)し、大学のグローバル化や地域の課題解決に貢献している。おもしろプロジェクトの1つである「野良猫増加に伴う公衆衛生学的問題を周知するプロジェクト(通称: 山大にゃんこ大作戦)」においては、全4回の講演会(勉強会)を企画・実施し、うち2回を市民講座として公開し、クラウドファンディングを学生が立ち上げ、目標金額である60万円を達成し、活動の幅を広げている。(中期計画1-3-1-2)</p>			

小項目 1-3-2	判定		判断理由	
障害者に対する学修の機会を提供し、合理的配慮を行うことができるように、学生への支援を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。	
		《特記事項》		
		(特色ある点) ○ 学生支援体制の充実 「山口大学における多様な性的指向と性自認 (SOGI) を尊重する基本理念と対応ガイドライン」を策定し、ガイドライン冊子の配付や研修会を開催している。また、研修会、授業、人材育成プログラムの実施等により、アクセシビリティリーダーの2級取得者を96名、1級取得者を7名輩出し、障害学生への理解を広め、支援する学生を増やしている。 (中期計画 1-3-2-1)		

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-4-1	判定		判断理由	
ダイバーシティ・キャンパスの実現を目指し、多様な価値観や経験、能力を持つ学生を受け入れ、また、高等学校教育で育まれた総合的な学力を発展・向上させるため、大学教育との接続に配慮した多様な評価・入試方法等の改善に取り組む。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。	
		《特記事項》		
		該当なし		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目 2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」、1項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
大学の独創的・先進的な研究を育成し、世界の学術研究をリードする「研究拠点群」を形成するとともに、異分野融合の特徴的な研究分野を開拓することにより、「地方創生」を牽引する「研究所・研究センター」として自立化させる。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「応用衛星リモートセンシング研究センターの活動」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ 応用衛星リモートセンシング研究センターの活動 応用衛星リモートセンシング研究センターを研究拠点群形成プロジェクトの一つとして戦略的に重点支援し育成することで、宇宙航空研究開発機構（JAXA）及び山口県と連携協力		

	<p>し、JAXA の地方への一部移転に貢献している。また、豪雨災害時の被害マップが作成できる解析・予測技術を開発し、令和元年度の九州北部豪雨災害と台風 19 号においては、世界の宇宙機関と連携しながら衛星データの観測と解析を行い、解析結果を、内閣府、国土交通省、JAXA、防災科学技術研究所、佐賀県、宮城県等に提供している。（中期計画 2-1-1-1）</p> <p>○ 再生・細胞治療研究センターの成果</p> <p>再生・細胞治療研究センターにおいて、臨床研究「非代償性肝硬変患者に対する培養自己骨髄細胞肝動脈投与療法の安全性に関する研究」に関して、2 症例に対して培養自己骨髄細胞肝動脈投与療法を国内で初めて実施している。また、「細胞培養機向け卓上型小型恒温装置」及び「アイソレータ用グローブ、スリーブ」を開発・事業化している。（中期計画 2-1-1-2）</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ AI 技術研究の推進</p> <p>「AI 技術研究交流促進プロジェクト」制度では、AI 技術の研究を行っている教員と、他分野でデータを扱った研究をしている教員との異分野融合による共同研究を促進している。例えば、工学部の情報系教員と医学部解剖学教員によるプロジェクトでは、児童虐待にかかる損傷の意見書等のテキストデータと写真等の画像データを AI 技術で処理し、損傷レベルの定量化・分類を行っている。医学的判別支援技術の開発が進むなど、新たな研究技術の開発に成果を上げている。（中期計画 2-1-1-1）</p> <p>○ 中高温微生物研究センターによるネットワーク構築</p> <p>海外研究機関との交流事業を通じて 2,600 株を超える熱帯性微生物菌株を保有し、提供できる中高温微生物研究センターについて、全国共同利用・共同研究拠点の令和 4 年度設置を目指して、平成 30 年度には、専用の研究施設を設置し、耐熱性微生物 BANK カルチャーコレクションの拡充や国内外の研究機関との共同研究によるネットワーク構築を推進している。（中期計画 2-1-1-2）</p> <p>○ 戦略的教授昇任制度による若手研究者の育成</p> <p>研究拠点としての自立化に向けて支援を行っている研究拠</p>
--	---

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
 (判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
先進的・学際的な研究分野を創出するため、研究環境基盤の整備及び研究サポート体制を強化するとともに、研究への大学の資源の戦略的な投資や地域との人材交流を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 総合科学実験センターの活動 総合科学実験センター遺伝子実験施設では、中国地区の国立5大学が大型機器を相互利用する中国地方バイオネットワークに参画し、次世代シーケンス解析の拠点的役割を担っており、学外研究者への施設見学等の実施により支援体制の拡充を図り、他大学や民間企業からの利用が、平成28年度2件(351千円)から令和元年度38件(11,088千円)に増加している。(中期計画2-2-1-1)		
小項目 2-2-2	判定		判断理由
相互に連携できる自由でオープンな研究環境を育み、研究の多様化と異分野融合を進めることで、「地方創生」に繋がる科学技術イノベーションを創出する仕組みを整備・強化する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 特許無料開放によるシンクタンク機能の強化 平成28年度から、地元企業に大学の研究成果を身近なものにするために、5年間(又は3年間)の無料使用期間を設けた「特許無料開放」制度を実施し、山口県内及び隣接県の企業との間で6件の無料開放契約の締結に至っている。また、無料開放制度をきっかけに関心を示した企業との交渉の結果、9件の有償譲渡契約及び2件の学術指導契約の締結に至っている。(中期計画2-2-2-1)		

	<p>○ 地元金融機関と共同による投資ファンドの設立</p> <p>地域における新たな産業基盤の創出と知の集積を図ることを目的として、地元金融機関と共同で山口大学発スタートアップ企業を育成・支援する取組を開始し、地元金融機関が、山口大学の学生・教職員・卒業生を主な投資対象とする投資ファンド「Fun Fun Drive：ファンファンドライブ」（総額3億円）を設立している。（中期計画 2-2-2-2）</p>
--	--

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
学術資産及び学術成果情報の発信を行い、地域の「知」の拠点として、「地方創生」を牽引し、地域課題解決のためのシンクタンク機能を強化する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫		
	(特色ある点) ○ ジオパーク推進活動の支援 自治体との包括連携において、山口県内2市のジオパーク推進活動を支援し、それぞれが日本ジオパークに認定されている。また、山口大学の橋渡しにより、2市が協働して世界ジオパーク認定を目指す社会連携講座を設置し、事業推進体制を強固にしている。(中期計画 3-1-1-1) ○ 地域課題の解決に向けた文理融合 山口学研究センターにおいて、山口市、国立歴史民俗博物館等と連携して「山口学研究プロジェクト」(10件)を文理融合の視点から推進することで、地域課題の解決に取り組んでいる。そのうち、「SDGsによる山口県内スポーツ観光資源の開発」プロジェクトは、観光庁の令和2年度の産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業に採択されている。(中期計画 3-1-1-4)		

小項目 3-1-2	判定		判断理由
若年層の流出超過を抑制し、活力ある地域を再生するため、地方自治体、地元産業界等と連携し、地域が求める人材の育成、そのための教育プログラムの構築	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
を行うとともに、優れた人材の地域への定着を図るため、地元就職率の向上、雇用創出の推進に貢献する。	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ COC+事業実施体制の強化</p> <p>文部科学省の地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）において、学長が自ら地元企業等を訪問し、事業の普及活動に力を入れ、取組の重要性を幅広く浸透させた結果、参加企業数は当初の18から177に増加し、全国最大規模のネットワークに発展させている。（中期計画 3-1-2-1）</p>		

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「計画以上の進捗状況にある」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
大学のグローバル化を総合的に推進するとともに、留学生を含む全ての大学人が、互いの歴史、文化、民俗、言語、宗教などの違いを超えて、共感、共鳴、共奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」を実現する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「国際総合科学部におけるグローバル化」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	（優れた点） ○ 国際総合科学部におけるグローバル化 国際総合科学部では海外留学を教育課程に組み込み、学生を1年次にフィリピンでの1か月間短期語学研修に派遣し、2年次後期からは交換留学制度により約20の国・地域の海外協定大学へ1年間派遣している。また、海外インターシップに毎年度20名が参加し、実社会における生産現場や企業の課題を学ぶ機会を設定している。これらの取組の結果、		

	<p>入学から4年間でTOEICスコアが平均200点以上上昇している。また、語学力だけでなく、卒業研究として、山口県美祢市と連携して台湾からの訪日観光客誘致のための「美祢市を知ってもらおう100の提案」等のプロジェクトを実施し、コミュニケーション能力と協働力を活かし、地域と連携した課題解決型教育を実施している。（中期計画4-1-1-1）</p> <p>（特色ある点）</p> <ul style="list-style-type: none">○ 多言語・多文化学習の全学的な推進 「山口大学憲章」、「明日の山口大学ビジョン2015」を制定し、歴史・文化・民族・言語・宗教など、多様性を許容し、新たな価値観を創造する「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指し、留学生による外国語での会話体験や言語学習の相談など、多言語・多文化学習を実施している。そうした取組の結果、持続可能な開発目標（SDGs）の枠組みを通じた社会貢献力を評価するTHE大学インパクトランキング2019において、日本国内4位になっている。（中期計画4-1-1-1）○ 技術経営教育・研究のアジア展開 技術経営（MOT）教育・研究をアジア地域の大学で展開したことにより、アジア標準となる教育プログラムを開発している。また、知的財産や新興国のイノベーションに関する国際連携講座の設置（マレーシア、インドネシア）による技術経営教育拠点を構築し、国際クロスアポイント制度を策定、活用によるASEAN諸国への展開を開始している。（中期計画4-1-1-1）
--	---

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目1 教育に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.38 うち現況分析結果加算点 0.05
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.33
小項目1-1-1 学生が修得すべき学修能力を明確化し、地域から世界までを視野に入れた実践的課題解決能力を培うための体系的な学士課程教育を実施する。	【4】	優れた実績を上げている 2.60
中期計画1-1-1-1 【1】 本学の学生が卒業までに修得すべき能力の到達度測定の方針(アセスメント・ポリシー)を明確化するとともに、平成31年度までに授業科目ナンバリング(授業科目に番号を付し分類することで教育課程の体系的性を明示する仕組み)等を整備し、ディプロマ・ポリシー(学位授与に関する方針)及びカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成方針)に基づく体系化された教育課程のさらなる充実に取り組む。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-2 【2】 社会において求められる人材の高度化・多様化を踏まえ、大学教育を通して知識理解だけでなく知識活用できる力を養うため、平成26年度に採択された「大学教育再生加速プログラム」により、アクティブ・ラーニング(能動的な学習)を組織的に推進し、平成31年度までに共通教育の80%以上をアクティブ・ラーニング化する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-3(★) 【3】 本学では、理系・文系を問わず、各自の専門性や必要性に適合した知的財産に関する知識やその利活用スキルを駆使することのできる人材を育成するため、全学必修入門科目を平成25年度に導入し、平成27年度までに学部専門科目レベルの入門科目に直結する接続展開科目及びさらに上位水準の法律科目を開設し、体系的な知的財産科目を構築した。第3期中期目標期間中は、全学的に体系的な知的財産教育を推進し、e-ラーニング(electronic learning:情報技術を用いて行う学習)教材の充実及び体系的な学修効果測定とそれに基づく授業改善を実施する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-4(★) 【4】 社会のニーズに対応した実践的な教育内容の充実を図り、地元企業での事業戦略や自治体の政策等、地域の諸課題に対する解決策を提示できる人材を育成するために、大学が持つ専門領域からのアプローチと地域社会が抱える様々なテーマからのアプローチによる双方向からの課題解決に取り組む「実践的課題解決学習」を学士課程教育において全学的に展開する。加えて、実社会への適応能力の高い実践的な人材を育成するために、大学が関与する形でのインターンシップを推進し、より一層の単位化を行う。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-5(◆) 【5】 平成27年度に教員養成課程へ一本化した教育学部では、地域の教員養成の拠点機能を果たすため、教育の理論と実践を融合させた体系的な教育課程を編成し、学校現場での実践的指導力を身につけた質の高い教員を養成するため、ミッションの再定義で掲げた数値目標に従って、学校現場での指導経験を有する大学教員の割合を現状の20%から30%に引き上げるとともに、山口県における教員養成の占有率を、現状の小学校26%、中学校22%、特別支援学校8%から、小学校40%、中学校30%、特別支援学校20%にまで引き上げる。	【2】	中期計画を実施している
小項目1-1-2 各専門領域の強み・特色を明確にし、時代の動向や社会構造の変化に対応する体系的な大学院教育を実施する。	【3】	進捗している 2.33
中期計画1-1-2-1(★) 【6】 研究者及び高度専門職業人が共通して持つべき能力を身につけるため、本学が強み・特色としている知的財産教育及び研究倫理教育を平成31年度までに全ての研究科に導入する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-2-2 【7】 平成28年度に新設する創成科学研究科においては、イノベーション創出に貢献できる理工系人材を養成するため、海外特別研修や長期インターンシップ等のキャリア教育を実施する。また、イノベーション実践教育プログラムの開発や技術経営分野の教育を充実し、イノベーション教育を推進する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-2-3 【8】 平成28年度に新設する教育学研究科教職実践高度化専攻において、地域の教育委員会等と連携し、学校現場の課題解決プロジェクト型研究を通して、理論的・実践的に高度な専門能力を有し校内や地域において指導的役割を担い得る教員の養成を実践するため、ミッションの再定義で目標として掲げた修了生の教員就職率85%以上を達成する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目1-1-3	地域社会のニーズに対応し、大学において社会人が新たな能力を獲得するための学び直しを推進する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-1-3-1	【9】社会人が学びやすい履修証明プログラムなどの短期集中コースの設定やICT(Information and Communications Technology:情報通信技術)を効果的に活用した学修方法の充実等を進め、地域のニーズを踏まえながら、産業界と協働して、社会人を対象とした実践的な学び直しプログラムを開発・実施し、生涯を通じた高度な知識・技能を修得する場としての大学教育の機能を強化する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-2	教育の実施体制等に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
小項目1-2-1	教学マネジメントを強化するとともに、修得すべき能力に対する到達度を客観的に示す評価方法を導入し、学生の学びを保証する。また、他大学との連携により教育体制を整備・強化し、教育の質を向上させる。	【4】	優れた実績を上げている	2.50
中期計画1-2-1-1	【10】教学に関する各種データの分析と可視化を図るため、平成28年度までに教学IR(Institutional Research)組織を整備・強化し、実証データに基づく教育改善及び学修支援の充実に取り組むとともに、教学IR活動の評価検証を継続的に行いながら、教育の質の向上に繋げる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-1-2(◆)	【11】ディプロマ・ポリシーに基づく人材育成の達成度を定量的に可視化する「山口大学能力基盤型カリキュラムシステム(YU CoB CuS)」を平成31年度までに全学展開する。また、同システムと連動したポートフォリオ(総合的な学習の評価方法)システム等を導入し、学修プロセスを可視化することにより、学生自身の振り返りを促進するとともに、教員による学修プロセスの把握を通じた学修指導を可能とし、教育・学修の質的転換に繋げる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-1-3	【12】教育の質を担保する教学マネジメント強化のための教職員の専門性向上を重視し、学生の多様性(社会人、留学生、障害のある学生等)に係る支援方法に対応する教職員の育成及びアクティブ・ラーニング等の教育方法に対応する教員の育成に組織的に取り組むため、教職員・学生協働を通じたファカルティディベロップメント(大学教員の教育能力を高めるための実践的方法)及びスタッフディベロップメント(大学の事務職員・技術職員の資質向上のために実施される研修などの取組)研修を推進する。また、本学のみならず、山口県内の大学における教学マネジメントの更なる強化に資するため、県内大学コンソーシアムと連携したファカルティディベロップメント及びスタッフディベロップメント研修を実施する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-2-1-4(◆)	【13】地域の教育委員会等と連携した現職教員研修に組織的に取り組むとともに、平成29年度までに「全学教職センター」を設置し、全学的な責任ある教員免許取得体制の構築に取り組む。これまでの知的財産教育の蓄積を踏まえて、「知的財産センター」を全国の知的財産教育研究の共同利用拠点として他大学へのファカルティディベロップメント及びスタッフディベロップメントや独自の特許検索システムの活用を推進する。また、欧米水準の獣医学教育を実施するため、共同獣医学課程において、北海道大学、帯広畜産大学、鹿児島大学と連携し、臨床実習の充実等の教育カリキュラム改善を行うとともに、eラーニングコンテンツ共有システム・バーチャルスライドシステム等を利用した教育コンテンツを充実し、平成32年度に欧州獣医学教育認証を取得する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目1-3	学生への支援に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-3-1	学生が学修に専念できる環境を整備するため、経済支援を充実するとともに、学生の主体的な学びを促進する。	【3】	進捗している	2.50
中期計画1-3-1-1	【14】本学の創基200周年を記念した事業の一環として、個人、企業団体、卒業生、同窓会及び教職員等による寄附金により創設した「山口大学基金」等を活用し、日本人学生の給付型奨学金・海外留学及び外国人留学生への経済支援など学生のニーズに応じた支援を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-2	【15】学生の自主的活動等(おもしろプロジェクト、インターンシップ、学生スタッフ活動等)に関し、情報の収集・発信及びボランティア団体等との連絡調整を自主活動ルームにおいて行い、活動に対する経済的支援を含めて組織的に支援する。併せて、教育効果を高めるためのプログラム化を進め、これらの活動のための環境を整備する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

山口大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目1-3-2	障害者に対する学修の機会を提供し、合理的配慮を行うことができるように、学生への支援を推進する。	【3】	進捗している	3.00
中期計画1-3-2-1	【16】修学上様々な困難を抱える学生を支援するために、学生特別支援室の機能を充実し、就職支援も含めた体制を整備する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目1-4	入学者選抜に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1	ダイバーシティ・キャンパスの実現を目指し、多様な価値観や経験、能力を持つ学生を受け入れ、また、高等学校教育で育まれた総合的な学力を発展・向上させるため、大学教育との接続に配慮した多様な評価・入試方法等の改善に取り組む。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-4-1-1	【17】入学後の教育カリキュラムとの関係性や、求める能力の評価方法が明確化されたアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)を平成29年度までに策定する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-4-1-2	【18】大学入学希望者を多面的・総合的に評価し、高等学校教育での「学び」が大学入学者選抜に反映されるような高大接続を考慮した入試方法を平成31年度までに設計する。入学者追跡調査を基に本学のAO入試(アドミッション・オフィス入試)で実施している多面的評価方法を発展させ、学力の三要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を評価できる新しい評価基準及び手法を設計し入試に導入する。特に、「主体性・多様性・協働性」を評価するため、調査書等を点数化して試験に取り入れる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-4-1-3	【19】「ダイバーシティ・キャンパス」を形成する学生を受け入れるためのプラットフォームを構築し、学力の三要素を評価するための基礎作りを行う。特に、①志願者の高等学校教育での「学び」(学習の評定値、資格・検定試験等の成績など)を数値化し、それらを評価基準の一部として活用する入試システムの策定、②志願者の地域(外国を含む)を限定しない出願のインターネット化(グローバル化)、③アドミッションオフィサ(専門職員)を置き入試システムの整備・強化を平成31年度までに実施する。	【2】	中期計画を実施している	
大項目2	研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.41 うち現況分析結果加算点 0.16
中項目2-1	研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	3.50
小項目2-1-1	大学の独創的・先進的な研究を育成し、世界の学術研究をリードする「研究拠点群」を形成するとともに、異分野融合の特徴的な研究分野を開拓することにより、「地方創生」を牽引する「研究所・研究センター」として自立化させる。	【4】	優れた実績を上げている	3.00
中期計画2-1-1-1	【20】大学の研究推進核形成を目的として、平成16年度から運用している「研究推進体」の制度を進化させ、個性的で多彩な地域文化育成のための「山口学」や「医学・獣医学連携」など、現代世界と地域の課題を解決する特徴的な研究分野を創出する。また、「応用工学」や「有機・材料化学」、「植物工場研究」など、異分野融合のプロジェクト研究を活性化し、常時20前後の研究推進体等のプロジェクト研究を認定・支援する中で、核となる研究拠点を育成する。特に、政府研究機関等との連携実績のある研究拠点を戦略的に育成し、地域や地方自治体との協力で「地方創生」に貢献する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-1-1-2(◆)	【21】平成26年度に新設した「先進科学・イノベーション研究センター」を核として、国内外の大学等との連携・協力を進め、同センターに所属する研究拠点群の形成と自立化を促進する。同センターの最初の研究拠点として認定した「中高温微生物研究センター」、「難治性疾患トランスレーション研究拠点」の2拠点からスタートし、平成31年度までに、5以上の研究拠点群の形成を促し、2拠点以上を大学附設「研究所・研究センター」として発足させ、外部資金の間接経費を活用した自立的な運営や新たな学問分野の創生を支援する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目2-1-2	各部局・各研究分野における研究の多様性を確保し、地域の基幹総合大学に相応しい、個性的で独創的な研究領域の創出を育み、その国際展開を活性化する。	【3】	進捗している	3.00
中期計画2-1-2-1(◆)	【22】文理融合の国際拠点を目指す「時間学研究」を始めとして、自然科学・人文社会科学系を問わず進展が期待される、異分野融合の研究(時空間防災学や光・エネルギー(水素)研究等)の拠点化・国際化を推進し、国内外の研究機関との共同研究を推進するため、長期的視野での国際的人材交流・人脈形成のシステムを平成31年度までに整備する。さらに、その成果を世界に発信し普遍化することにより、人類社会の持続的な発展に寄与する。また、平成31年度までに10以上の重点連携大学(本学の研究力向上につながることを期待できる国際交流大学として、本学独自の基準で指定する大学)との研究連携を推進し、海外の研究者の継続的な招聘または本学研究者の長期派遣を行うことで、国際共著論文数について対平成26年度比10%増とする。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目2-2	研究実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-2-1	先進的・学際的な研究分野を創出するため、研究環境基盤の整備及び研究サポート体制を強化するとともに、研究への大学の資源の戦略的な投資や地域との人材交流を推進する。	【3】	進捗している	2.50
中期計画2-2-1-1	【23】研究基盤を充実・確保するために毎年度「施設及び設備のマスタープラン」を見直し、計画的で適正な整備を進める。特に、各キャンパスの機器の共同利用環境の質を高めるために、技術職員の全学的な組織化の推進や総合科学実験センター「常盤分室」の開設等により、機器利用の支援・メンテナンス体制を強化する。また、地域の研究機関等との連携を戦略的に強化し、「ものづくり創成センター」の全学センター化などの施策により、先端機器の共同利用や学外への施設・設備開放を推進する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-2	【24】優れた若手研究者、女性研究者及び外国人研究者を積極的に採用・育成するために、テニュアトラック制(若手研究者が任期付の雇用形態で自立した研究者として経験を積むことができる仕組み)の普及・定着に努め、理系分野のみならず文系・文理融合分野への拡充を行う。また、研究実施支援体制の強化策として、全学研究支援組織に所属する大学リサーチアドミニストレータ(URA)や産学コーディネータ(CD)、及び事務組織間の連携を図り、研究者の戦略的な支援体制を整備・強化する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
小項目2-2-2	相互に連携できる自由でオープンな研究環境を育み、研究の多様化と異分野融合を進めることで、「地方創生」に繋がる科学技術イノベーションを創出する仕組みを整備・強化する。	【3】	進捗している	2.50
中期計画2-2-2-1	【25】山口県を中心に福岡・広島を視野に入れた地域の産官学金の諸機関の有機的な連携を基盤として、地域発イノベーションとなる研究成果を活かして、知的財産を確保し「地方創生」を牽引する。大学独自の知的財産(特許等)の期間限定での無料開放により、地域の企業や研究機関との共同研究・受託研究を活性化することで、大学のシンクタンク機能を強化し、地域課題、例えば山口県が進める医療関連、環境・エネルギー分野の産業振興施策などに組織的に取り組む。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-2-2(※)	【26】地域の産官学金と連携し、実践的なイノベーション人材育成プログラムを開発し、地域発(大学発)ベンチャー企業の連鎖的創出に資する人材を育成する仕組みを構築する。平成28年度の創成科学研究科の設置と呼応して、実践的なアントレプレナー教育教材の開発や、現役のイノベーターによる講義・海外のイノベーション拠点等での学生のインターンシップを実現する。こうした施策を通して、新たに起業する大学発ベンチャー企業の育成や創出を支援する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

中期目標(大項目) 中期目標(中項目) 中期目標(小項目) 中期計画	判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
	なし	—	—
小項目3-1-1 学術資産及び学術成果情報の発信を行い、地域の「知」の拠点として、「地方創生」を牽引し、地域課題解決のためのシンクタンク機能を強化する。	【3】	進捗している	2.50
中期計画3-1-1-1 【27】地域の基幹総合大学として、「地方創生」を牽引するため、対外的には、県内大学コンソーシアム、地方自治体、地元産業界等との連携を強化し、包括連携協定を通じた取組や地域の課題解決につながる取組を実施する。学内的には、全学的なワンストップサービスの窓口である「地域未来創生センター」を中心に、学内リソースの集約・リスト化、地域課題の実態把握等の機能を充実させ、より機動的できめ細かな対応に資する体制を強化する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画3-1-1-2 【28】本学所蔵の学術資産の系統的な修復・保存を促進するとともに、ICTを活用した電子的資料を公開するためにデジタル化した資料を蓄積する。さらに、地域の教育関連施設等と連携し、展示活動を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-3 【29】本学で生産された学術研究成果物(論文等)を、山口大学学術機関リポジトリ【YUNOCA】(山口大学で生産された学術研究成果を学内外に発信するためのインターネットの保存書庫)に電子的に保存し、学内外へ発信・公開を継続的に行っており、発信力をより向上させるため、YUNOCAへの登録件数を増加させる。また、山口県大学図書館協議会の事業として、県内の大学・高等専門学校と連携して行っている山口県大学共同リポジトリ【維新】の運営を継続的に支援する。さらに県内自治体との連携により、遺跡の発掘調査報告書等を電子的に保存・発信するための山口県遺跡資料リポジトリの運営を継続的に支援するとともに、これらの実績を踏まえ、新たな山口県の『知』の発信拠点として、山口県内の博物館、美術館、公共図書館及び研究機関との連携により、山口県地域学リポジトリを構築し、登録件数を増加させ、発信力を向上させる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-4 【30】山口県が抱える課題の解決に資するため、「山口学研究センター」を中心に山口県の自然、文化、歴史、防災等に関するプロジェクト研究を文理融合の視点から推進する。プロジェクト研究を推進するなかで、地域への情報発信、地域と連携した人材の育成及び交流を通じて、地域の活性化に貢献する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
小項目3-1-2 若年層の流出超過を抑制し、活力ある地域を再生するため、地方自治体、地元産業界等と連携し、地域が求める人材の育成、そのための教育プログラムの構築を行うとともに、優れた人材の地域への定着を図るため、地元就職率の向上、雇用創出の推進に貢献する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画3-1-2-1(◆) 【31】県内大学コンソーシアム、地方自治体、地元産業界等との連携を通じ、地域が求める人材、能力に関するニーズ調査を実施し、インターンシップの拡充、キャリア教育・職業教育の充実等を含む教育プログラムを構築する。また、地元企業のデータベースを整備・活用して学生への情報提供及び就業力向上等の就職支援の取組を行い、地元の定着率の向上を図る。これらの取組により、平成31年度までに、地元就職率を10%向上させる。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-2-2(◆) 【32】地方自治体、地元産業界等地域関係者との定期的な協議の場を設置し、地域のニーズを逐次集約する。また、技術経営研究科における技術経営者養成、知財教育を通じた創意工夫に意欲を持つ人材の育成、産学公連携センターやものづくり創成センターにおける地元産業界との連携等、本学の強みを活かした共同研究等への取組を通じ、地域の産業振興、イノベーションの創出に寄与するとともに、新たな起業、新規事業化等による雇用創出を支援する。平成31年度までに、向上させるとしている地元就職率のうちの10%については、これらの新たな取組によるものとする。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目4 その他の目標	【4】	計画以上の進捗状況にある 4.00
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある 4.00
小項目4-1-1 大学のグローバル化を総合的に推進するとともに、留学生を含む全ての大学人が、互いの歴史、文化、民俗、言語、宗教などの違いを超えて、共感、共鳴、共奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」を実現する。	【4】	優れた実績を上げている 2.67
中期計画4-1-1-1(◆) 【33】平成27年度に設置した国際総合科学部において、文理を超えた基礎的な知識と、日本語・英語をツールとした高いコミュニケーション能力、課題解決能力、チームにおけるアイデアや意見を調整する能力等を備えた人材の養成を目指し、海外協定大学との交換留学モデルを構築し、海外留学や海外インターンシップを推進する。また、技術経営研究科において、アジア、特にASEAN各国をメインフィールドとして活躍する技術経営人材「アジアイノベーションプロデューサー」を育成するための体系的かつアジア標準となる教育プログラム及び教育拠点を構築する。さらに、国際総合科学部及び技術経営研究科における取組実績の全学的な展開、取組事例の広報、共有を推進し、英語やアジア諸言語をはじめとした多言語・多文化学習を全学的に推進する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画4-1-1-2(◆) 【34】大学のグローバル化を総合的に推進するため、平成32年度までに、医学部医学科においては国際基準に基づく医学教育分野別外部評価を受審することとし、共同獣医学部においては国際認証を取得する。また、海外協定校とのダブルディグリープログラム等を推進し、国際水準を満たす教育課程の編成を実現する。加えて、国際公募等により外国人教員等を積極的に雇用するとともに、平成31年度までに、一部分野の教員の国際公募を実施する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画4-1-1-3(◆)(*) 【35】「ダイバーシティ・キャンパス」の実現に向けた多様な価値観が共存する環境を整備するため、平成31年度までに、外国人留学生数を平成26年度比80%増、日本人の海外留学者数を平成26年度比100%増とする。(いずれも短期間の者を含む。)これを実現するため、海外協定大学との交換留学モデルの構築、海外留学や海外インターンシップに係る条件整備、海外オフィスを活用した広報活動の強化、海外同窓会の組織化、留学体験・取組事例の広報等を推進する。	【2】	中期計画を実施している

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★)：「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆)：文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*)：新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析：「教育」

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育」に関する目標} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析：「研究」

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究」に関する目標} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。